話の広場

[投稿]

「土木博物館（仮称）」構想と「土木の学校（仮称）」

「小さく生んで,大きく育てる」土木の国家的拠点を目指す博物館

黒田勝彦
KURODA Katsuhiko
正会員　工博
土木学会　神戸文明博物館群土木博物館（仮称）具体化検討委員会　委員長
神戸大学教授　工学部建設学科

亀井三郎
KAMEI Saburo
㈱日建設計　大阪オフィス　計画室

神戸文明博物館群構想と土木博物館（仮称）

神戸文明博物館群（20 世紀博物館群）は，神戸市北区において（図-1），『人々が「集い」，「学び」，「創る」新しいミュージアム』を目指し，神戸市が具体化を進めている構想である。これは，日本文明にかかわるさまざまな博物館群を中心に，研究，業務，共同利用および公園・緑地施設が集積した 21 世紀文明に関する研究開発拠点，交流都市としての情報発信拠点を目指すものである。

その中において，土木博物館（仮称）（以下，「土木博物館」という）は，神戸文明博物館群構想の中核的・先導的役割を担うべき博物館として位置づけられている。

土木博物館基本構想

土木博物館の具体化は，神戸市の委託のもと，（社）土木学会が設立した「土木学会土木博物館（仮称）基本計画策定委員会」において，土木や博物館等の専門家の参画を得て進められ，1998（平成 10）年 11 月，神戸市長に「土木博物館（仮称）基本構想」として提言された。

この基本構想は，土木博物館の全体像（図-2）を示したものであり，「アーカイブス」と「コミュニケーション」という二つの拠点を中心に構成するものとしている。

図-1　神戸文明博物館群および土木博物館の計画地（神戸文明博物館群公園）

図-2　土木博物館（仮称）の基本的性格と構成

土木に関する資料の収集保存・調査研究拠点：「アーカイブス」

「アーカイブス」とは，土木関係のさまざまな資料を収集し，一元的な保存ならびに後世に継承していく役割を担うものである（収集保存機能）。また，土木に関するさまざまな視点からの調査研究を行い，その成果を社会に発信する役割も有する（調査研究機能）。

この背景には，現在土木に関する貴重な資料が，それぞれの関係者によって分散的に保管されており，散逸化が危惧されていることがある。このような状況を回避し，現在の資産を将来に継承していくことは，数多くの土木分野で世界をリードしているわが国の責務と考え，わが国の土木

交流

の拠点を目指す土木博物館で，その役割を担おうとするものである。

このアーカイブスは，その性格から国家的なレベルでの意義・役割・活動を果たすものであり，最終的な目標として「土木アーカイブスの国家的拠点：ナショナル・センター」の位置づけを目指している。

土木と人々・地域との交流拠点「コミュニケーション」

土木博物館では，「博物館とは，人がさまざまな目的をもって訪れ・交流し，地域や人とともに成長・発展すべき施設」ととらえ，展示機能に加え，人や地域との交流を促す機能・活動展開の場としての整備が行われる。

このため，展示や教育学習・一般参加等を通じた「次代の土木を担う青少年を育成する場」，「地域の人々の多様な連携・交流を実践する生涯学習やまちづくりの拠点」，「世代間交流の場」などを目指すものである。

コミュニケーションの中心となる展示機能については，「土木技術や土木と自然，くらし・社会とのかかわり」や「楽しみながら学ぶ」，「土木を身近に感じる」，「課題を感じ・考える」などを基本的視点として展開しようとしている。この展示については，博物館屋内に加え，計画地である神戸文明博物館群公園（65 ha）における屋外展示，さらには関西圏の実際の土木施設等を回遊しながら見て回る「オープン・ミュージアム」により構成するものである。

土木博物館の具体化に向けて

土木博物館は，わが国を代表する土木の拠点施設を目指すものであるため，神戸市が単独で整備すべき性格のものではなく，（社）土木学会をはじめ，国等の行政，企業などの「土木界」との連携と協力のもとで実現すべき施設である。

さらに，博物館にとって生命線ともなる管理運営においても，収益性の確保に向けた方策の確立や，地域・土木界との連携に加え，常に進化する博物館を目指した「成長発展方策」の重要性が指摘されている。

「小さく生んで，大きく育てる博物館」

基本構想策定時には，同構想で示された内容を数期に分けて段階的に整備するという考え方も示されたが，土木の国家的拠点を目指す土木博物館では，真に市民や土木界と連携し，社会に根ざした施設となるべく，「小さく生んで，大きく育てる博物館」を目指すこととした。その理由としては，以下の点があげられる。

① 現時点では，市民および土木界の双方において博物館整備の気運が十分に高まっていない。

② 国家的拠点となる施設では，その必要性が市民に理解され，発信する情報を有効に活用できる土壌が形成されているべきであり，これには時間を要する。

③ 運営面や収益性の確保など，博物館が抱える課題への対応を図りながら具体化を進める。

この「小さく生んで，大きく育てる」という考え方は，欧米では博物館を中心とする市民密着型施設の整備に関する手法として定着しており，わが国のこれまでの公共施設整備等に往々にしてみられた「造ったものの運営システムがともなわない」，「造って終わり」という発想とは対極に立つものである。すなわち，土木博物館では，施設整備に先んじて，国民・市民が土木に触れ，親しみを抱く活動や，土木および土木博物館の情報発信・PR 活動から開始し，これらの活動の深化・高度化を時間をかけて展開することにより，土木博物館の必要性を市民レベルから盛り上げていくという，これまでのわが国にはなかったアプローチを実践しようとするものである。

「小さく生んで，大きく育てる」ための戦略的組織「土木の学校（仮称）」の設立とその内容

「小さく生んで，大きく育てる」ための戦略的組織として，土木博物館具体化検討委員会では，「土木の学校（仮称）」（以下，「土木の学校」という）を平成 15 年度に設立し，市民が土木に触れ・親しむ活動からスタートを図り，土木博物館の実現に向けたハード・ソフト両面での基礎づくりをひろく土木界および一般の市民等の参画を得ながら推進すべきとの提言を神戸市に行った。

平成 14 年度の事前（プレ）活動

「土木の学校」での活動を見据え、土木博物館具体化検討委員会では，平成 14 年度に対土木界，対市民への情報発信・PR および市民の土木関連活動に関するニーズの把握等を目的に，以下の二つの活動を実施した。

○平成 14 年度土木学会全国大会における研究討論会

「土木のナショナル・センターを考える－神戸土木博物館（仮称）計画－」と題する研究討論会を実施した。委員会委員である京都大学防災研究所河田恵昭教授を座長に，土木および博物館の学識経験者，行政，産業界，市民代表による活発な討論を行い，90 名を超える多くの熱心な聴講者を得て，盛況のうちに終えた。

○びっくり体験・土木ワールド　～集まれ！みらいのハカセたち！～

青少年を中心とする一般市民を対象に行ったイベントであり，「土木の学校」での活動および運営メニューの一つを実践したものである。神戸・ポートアイランドを会場に，年齢層を分けて三つのイベントを実施した。

① 土木ふしぎ体験ツアー

小学校低学年以下の親子を対象に，会場周辺で建設中

写真-1，2　土木ふしぎ体験ツアー（左），くらしと土木……学んで創る（右）のようす

の神戸空港や新交通の現場見学，建設機械の試乗体験，土に関する実験などを行った（写真-1）。

② くらしと土木……学んで創る

小学校高学年から中学生を対象とするイベントで，くらしと土木に関する総論的な講話から土木の個別技術をわかりやすく説明するとともに、参加体験型の内容を中心に構成した（写真-2）。

図-3　メロディブリッジコンテストのようす

③ メロディブリッジコンテスト

「人が渡ると音を奏でる橋」をテーマに，橋の強度，音が鳴る原理，独創性，意匠，完成度を競うスパン 3 m 以下の橋梁の制作コンテストである。高校生から社会人に至る 6 チームの参加を得た（写真-3）。

「土木の学校」の組織イメージ

「土木の学校」は，コアメンバーおよび各活動に参加する市民等により構成し，各活動内容に応じて関係組織・個人との連携を図るものとする。設立当初は土木界および関係組織がコアメンバーとなるが，活動の進展にあわせて土木に興味を抱き，熱意を有する市民等をコアメンバーに加えていく（図-3）。

平成 15 年度に任意団体として立ち上げ（事務局は神戸市庁内に設置），組織・活動運営等の試行・実証を行いながら，平成 17 年度には活動目的の特定性・持続性等を勘案して，NPO 法人（特定非営利活動法人）の認証を目指していく。

ここ数年間の活動内容（案）

「土木の学校」では，『「土木博物館」の実現に向けたハード・ソフト両面での基礎づくり』を目指し，以下の基本方針に基づく活動を展開する。

- 一般の市民等と土木のコミュニケーションの促進
- 土木および土木博物館の PR 活動
- 土木博物館のストックとなる各種活動の先行的実施やシステムづくり
- 土木博物館の整備・運営に資する人的，経済的資産の形成

ここ数年間の活動については，以下のような内容を想定している。

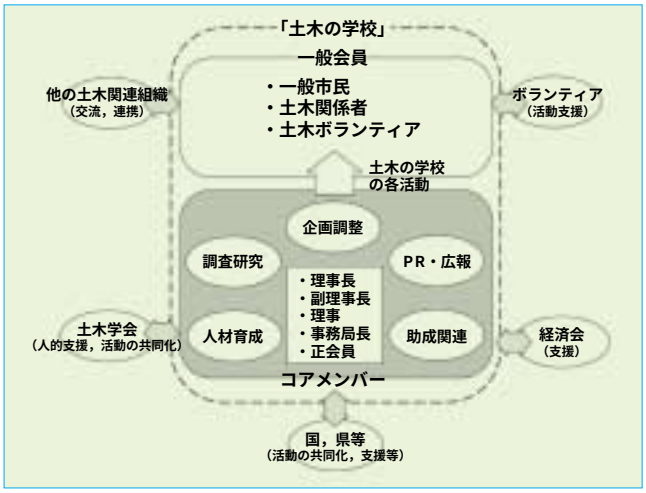

図-3　「土木の学校」の組織イメージ

- 市民とともに「まちの研究」を実施
- 土木の教室（総合学習制度などとの連携）の開催
- 地域で行われるイベントへの出前出展
- 土木学会全国大会研究討論会，ブリッジコンテスト等の継続的開催
- 博物館友の会活動の先行実施（博物館通信など）
- ヒューマン・アーカイブスの設立

さらに，NPO 法人化にあわせて，「バーチャル・ミュージアム」，「土木アーカイブスの情報収集」，「神戸文明博物館群公園で土木を体験する」，「土木に関するシンポジウムや行政，企業，学生等を対象とする研修会の開催」，「土木関係機関からの調査研究委託」，「土木に関する多様な活動への支援」などを立ち上げ，これらの活動を通じて，さらなる新たな活動へと成長・発展していくことを目指している。

おわりに

土木に関するさまざまな資料等が収集保存され，市民が土木と触れ・親しみ，多様な情報発信を行う国家的な拠点施設，「土木博物館」。これはわれわれ土木界が，永年にわたり求め続けていたものではないだろうか。しかしながら，近年の公共事業に関する議論と同じく，土木界の「思い」だけで博物館を創り上げるのではなく，市民がこれを理解し，受け入れることはもちろん，積極的に参加するような土壌を構築しなければ，真の意味での「ナショナル・センター」にはなりえない。このため，土木博物館では，これまでわが国が経験していない手法により，息の長い事業への挑戦を行うこととし，その第一歩を踏みだそうとしているところである。平成 15 年度から活動を開始する「土木の学校」での試みは，土木博物館のみにとどまらず，「土木」全体にとっても有意義なものになると確信しており，土木界をあげてのご協力を切に願うものである。

（2003年3月12日・受付）